

1726

雜  
款

1727

重復  
第四三五号

總令部長

次長 頼之 第二局

主事



淨寫

校合

發付

三月六日

三十二年三月廿二日

主務

立案者

林正

次官



軍務局長

[Signature]

軍務局長



經理小大



機關課長

岩



立案

臺灣海防第一二號ヲ以テ海防左相候清國軍  
門三本邦軍有ノ格留地設置ノ曉ニ或石炭庫  
ヲ建設スルニ務定メ有之候案ヨリテ  
[Signature]

毎  
宣

同治三年三月

三月

其地之遠近海峽等事

迄于日清通商航海條約第十四條中

復名庫之清國政府其諸刺港地

自建設スハ其後突倉庫等ヲ謂フモノ也

候ニ分派同存ノ越首ニ突倉等ノ

者亦倉中候也

海 軍

軍務局

一三號

軍務局

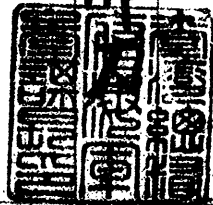
三十四

日清通商航海條約第十四條に依りて清國  
 政府は其ノ領有荒地に於て官設倉庫庫ヲ  
 設クルニトシ合意シ又夕誘條約に付帯  
 セル條約書第三條ノ末項ヲ見れば合  
 國政府は日本政府より請求し上り早業上海  
 天津厦門等と日本專有ノ飛船地ニ設ル  
 ルコト允さんし明文有之る抑て清國厦門  
 日本島下一帯水邊等ニ其ノ良港ニシ  
 テ本邦專有ノ飛船地設置ノ曉ニ其ノ飛  
 船ノ之と航スル協定亦其ノチカラニ依リ  
 可有之と其期に際し合地ニ上海  
 系仁川元山釜山等ノ如ク我石炭庫

ヲ設クルノ計西ノ子ニ置クハ最モ必可也  
ト被存身ニ付テハ左ノ如キニ  
計西ノ子付テハ最モ必可也  
身也

明治三十四年三月十日

海軍大臣 野澤 大 閣



海軍大臣 野澤 大 閣

官房第二四六

1731

軍令部長

次長

第一局

局長

主事

品四

三十二年三月六日起案

三月十日

發付

大臣 次官

品四

軍務局長

品四

軍務課長

品四

主任課係

品四

經理局長

品四

第三課

相原

三  
案  
三十二年三月六日  
第三二七號  
軍務局長  
軍務課係  
相原

海軍



秘

軍務局

經理局

1733

二四六号

軍務局

寺岡

秘乙第百四十九號  
 雲軍港區域内ナル廣島縣賀茂郡  
 一郡阿賀村ヲ安藝郡ニ編入ニ付  
 本年六月一日官房第百四一六号  
 ヲ以テ再應該會ニ趣有之由處在  
 地勢上郡界變更ヲ為スノ事由ナキ  
 ノニテラス多數人民ノ反對有之強  
 テ郡界變更ヲ為スニ於テハ其ノ經  
 授獨リ一郡法上ニ止ラズ例ヲ其ノ  
 他ニ及シ一般民法上ニモ斯カラザル累  
 ヲ及スノ虞モ有之尤也申越ニ趣ニ依  
 レハ明治二十七八年ノ後阿賀村等ノ  
 他郡ニ屬スルカ為メ斯カラザル障碍



ヲ感シタル趣ニ得方阿賀村ノ之ヲ  
 安藝郡ニ編入ニタシハトテ全然老ノ  
 不便ヲ免ル筋モ多ク様被考殊老  
 ニ就テハ最前及古回差片道リ非常  
 事變ノ場合ニ於テハ後者事務条  
 例第十條ニ規定セルカ如ク特例モ有  
 之ハハ此点ニ付テハ為差成不便モ  
 有リ伺及又町村衛生事務ノ舉否  
 ニ就テ之ヲ見ルモ別紙回品等事調査  
 之如ク阿賀村ハ之ヲ是地方ノ諸村ニ  
 比シテ却テ敏捷ニ活動セルノミナラス  
 近時内海警察署ヲ隣村廣村  
 ニ移轉以來更ニ幾多ノ便宜ヲ加ハ

夕ルニ依リ将来取締上ニ不都  
 合トモリニ洞敷ト存候然レトモ当左  
 ニテモ軍隊ノ保健上差支有之ハ  
 之ノ最前中進出進出ノ現在ノ警備  
 区域ヲ變更シテ吾等ニ於テノ所轄  
 ト為スノ義ニ別ニ支支ニ要スル  
 ニ本件郡界變更ノ義ニ為要  
 之ヲ理水官老ニ以テ知相成後以  
 存意及用意也

明治三十年十二月五日

内務大臣侯爵西郷 從道



海軍大臣山本權兵衛殿

此ノ別紙ハ此一覽之上凡回送相成  
後此般申添付也

啓  
答

安藝郡吳地方

(和庄町、庄山田村、宮原村、吉浦村)

ト是ニ接續スル賀茂

郡阿賀村トノ衛生上ノ關係及比較ハ左ノ如シ

一 阿賀村ト和庄町トハ小丘陵ヲ以テ自然ニ境界セル

モ一条ノ車道ハ能ク之ヲ連絡シ人事ノ交通頻

繁ニシテ吳鎮守府ニ雇役セラル、職工入夫、

如キモ阿賀村ニ下宿スルモノ往々有之一朝傳

染病ノ流行アルニ際シテハ其何レニ於テスルモ他、

一方ノ危険ハ一町村内ニ於ケルト大差アルナシ

一 阿賀村ハ其中央部ニ於テハ若干ノ商家擔

ヲ連ヌルモ他ノ部々ニ於テハ漁農相半バシ

地方トハ稍生業ノ状態ヲ異ニスルヲ以テ事毎ニ

衛生上ノ比較ヲ為ス能ハズト雖モ人口ト傳染病

患者發生トノ比較ハ別表示ス所ノ如シ

衛生、地方、系



矣地方(和庄町、庄山村、宮原村、吉浦村)ト是ニ接續スル賀茂  
 トノ衛生上ノ關係及比較ハ左ノ如シ  
 ト和庄町トハ小丘陵ヲ以テ自然ニ境界セル  
 卑道ハ能ク之ヲ連絡シ人事ノ交通頻  
 々異鎮守府ニ雇役セラル、職工人夫、  
 賀村ニ下宿スルモノ往々有之一朝傳  
 流行アルニ際シテハ其何レニ於テスルモ他、  
 險ハ一町村内ニ於ケルト大差アルナシ  
 其中央部ニ於テハ若干ノ商家擔  
 毛他ノ部分ニ於テハ漁農相半バシ異  
 積生業ノ状態ヲ異ニスルヲ以テ事毎  
 比較ヲ為ス能ハズト雖モ人口ト傳染病  
 發生トノ比較ハ別表示ス所ノ如シ

廣  
 場  
 系

1738

下ニ系係付シ  
 〃

一 天然痘患者ハ阿賀村ヨリモ寧口和庄町官原  
 村等ニ多キハ事實ニシテ是レ阿賀村ハ民俗  
 頑朴ニシテ規則ノ行ハレ易キニ及レ異地方ハ  
 羈旅ノモノ多ク為メ種痘ノ普及シ能ハサル  
 ノ結果ニ外ナラズルヘキヲ認ム

一 傳染病豫防上必要ノ為ニ施行セル清潔法施  
 行費ノ如キモ阿賀村ニ於テハ其住民ハ概ス  
 各自ニ於テ親シク為ルベキ義務ト思惟スルヲ  
 以テ各家人共執行ノ勞役ニ服スルガ故ニ町  
 村公費ヲ節減シ得ルモ和庄町ノ如キハ家人  
 ハ全ク傍觀ノ地位ニ立ツノ者様ナルガ町村  
 公費多額ヲ要スル所以ナリ

一 阿賀村傳染病院ハ明治十九年ノ建設ニ係ル

ヲ以テ異地方ノ病院ニ比シテハ稍不完全タルヲ免  
 シズ(異地方ノモノハ明治廿七年比外部ノ刺撃ニ日  
 リ上級機關ノ補助又ハ個人ノ義捐金ヲ得テ茲  
 ニ始メテ建設スルノ運ニ至リタルモノ多キニ存シト  
 雖モ一朝傳染病患者榮生ノ時等ニ際シテハ  
 豫防事務施行ノ狀況異地方ヨリモ敏捷ナ  
 ル活動ヲ見ルヲ常トス異地方ニ於テモ就中宮  
 原村吉浦村ノ如キハ一ハ鎮守府ノ要部に直  
 接シ一ハ異港航船出入ノ港灣ヲ有スルニモ  
 拘ハラズ豫防事務ノ執行ニ就而ハ最モ敏捷  
 タク宮原村ニ於テ殊ニ然リトス  
 一 街路並ニ街路便所ノ取締及掃除其他各  
 人自備衛生ノ事ニ就テハ和左町等ハ其佳民ノ

生活阿賀村ヨリモ上位ニ居ルノミナラズ警察署ノ  
 注意モ一層重キヲ置キツ、アムヨリ稍其進歩シ  
 居ルヲ見ルモ阿賀村殊ニ漢民部落ニ至ラハ  
 甚々其不可ナルヲ見ル

一 従前ハ阿賀村ヲ管轄スル警察官署ハ内海  
 町ニ在リ其距離五里七町、加フルニ山野高低多  
 ク道路險坂ナレバ過般内海分署ヲ隣村廣  
 村ニ移轉以來ハ其距離僅々廿六町道路  
 亦平坦ナルヲ以テ其取締向ニ多少ノ便宜加  
 ヘタリ



明治廿八年消毒の清潔法施行表

町村名	人口	戸数	施行戸数	総費額	一戸平均費額
阿賀所	八七〇三	一六一六	一八四一	四一九七五	〇.四二二
廣村	一三九〇八	二五一〇	二五〇〇	八一三四〇	〇.〇三二
和庄所	五二〇〇	三三六〇	二九〇〇	二一七四六	〇.七三〇
庄山田村	五五〇二	一四一八	一一一〇	三九七七七 <sup>五</sup>	〇.三五八
吉浦村	七五〇四	一六七八	四〇一	五二〇六〇	〇.〇五二
宮原村	八六六	三二〇〇	九七四	三八九六〇〇	〇.四〇〇
計	四一六八三	一三七八二	九七二六	一二七三四九六	

明治廿九年消毒の清潔法施行表

町村名	人口	户数	施行户数	総費額	一戸平均費額
阿賀村	一、八一〇	八、九一〇	一、一〇九	六五、七〇〇	〇、四〇五九
廣村	二、五一五	一三、八九四	一、二〇〇	一五三、一六〇	〇、一三〇
和庄町	七、七四四	三、五六八	二、七七九	六〇、六、五五四	〇、二一九
庄山田村	五、七四二	一、四六五	一、一九八	六〇、二三八	〇、〇五三
吉浦村	七、七三三	一、七九二	一、六〇八	一七二、九七〇	〇、一〇八
宮原村	三、一九六	九五三	五三一	四三、八七〇	〇、九九九
計	二八、七四〇	三〇、五八二	八、四二五	一、一〇三、四九二	

層 集 集

系列拉瘋患者表

町村名	患者 死七	明治廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十一年	計	人口二十廿五年 間患者數割合
阿賀村				二 三			二 三	二九〇
廣村				二 三 七			二 三 七	二七〇
和庄町				七 九 六			一 〇 二 七 八	一三一〇
庄山田村				二 四 二 八			三 〇 三 六	五二二
吉浦村				四 九 三			五 〇 六 六	八五三
宮原村				二 二 三			二 二 四	七五〇
合計			三 五	二 二 一 二 七 六		三 三	二 二 七 五	

赤痢病患者表

町村名	患者 死亡	明治廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十一年	計	人口 患者数、割合
阿賀町		六二 二七	、	一二	、	四八 二九	一 五二	一、二五二
廣村		一〇五 四九	六 二	、	五 二	三四 一六	二〇 九	一、五一八
和庄町		二六 九	九 四	、	一 七	一五 六	一 五二	一、九四〇
庄山田村		三 一	四 三	、	三 二	二八	七 四	一、二七〇
吉浦村		一五五 四七	三 四	一 五	一 六	九 二	二 三二	三、〇〇〇
宮原村		一七 六	五 五	、	二 一	六 五	一 五八	四、九七〇
合計		三六八 一三八	二 三	二 九	一 三	一 八三	九 二九	三、五五

歴  
録

天然痘患者表

町村名	患者 死亡	明治廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	計	合計 明治廿六年 間患者数割合
阿賀町		1	1	1	1	1	5	0
廣村		1	1	1	1	1	5	144
和庄町		38	4		29	1	72	44
庄山田村		1	1		3	1	6	87
吉浦村		6	1		4	8	18	61
宮原村		1			5	2	7	19
合計		53	6		65	12	136	

廣島縣

		腸窒扶斯患者表						
町村名	患者 死七	明治廿六年	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	計	合計 患者数 割合
阿賀村		二二	一三				二七	三八〇
廣村		一三	一	一五			三〇	一四三
和庄町		一二		一	一〇	二四	五七	二一九
庄山田村		二二		一	一	一	三四	〇六九
吉浦村				二	二	一	五	一二五
宮原村				一	一		二	〇六〇
合計		三九	三七	三三	一五	二六	一八〇	

寶布埜里亞患者表

町村名	患者數 明治廿二年	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	計	合計 患者數割合
阿賀村	二					二	二 二二
廣村							〇
和庄町					二二	二二	二五
庄山田村							〇
吉浦村							〇
宮原村							〇
合計	二				二二	二四	





1250

四六号

軍令部長



次長



第一局



主事



年 月 日 起 案

六月一日

發付

大臣



次官



軍務局長

軍事課長

主任課長

經理局長



案  
吳軍港区域内、諸村安藝郡、合併之儀、付曾

案

毎 頁

手書ハ  
其ノ  
如ク  
及

文  
1-5

發付  
乃

六月一日

軍事課長

主任課係

五

新、合併之儀、付曾

録  
宣

平書ハ平口午後十時八時議院  
二其総理大臣、御下、登進  
期成度

平書

1751

予御照會ノ統秘乙第三十ノ四ノ九号ヲ以テ御回答ノ  
 趣有之。茲處徵茂上諸物件ノ調査ニ當リ、該諸村ノ  
 他郡ニ亘ルカ為メ、勘カラサルノ障害ヲ感スルハ、二十七八年  
 從ノ實際ニ徴シテ、明カナル可ク有之。入平時ニ於テハ、衛生上最  
 セ不都合ヲ感シ、炭疽芽ニシテ、元來衛生ノコトタル軍ニ警  
 察區域、変更ヲ以テ足レルモノニ非ス。關係人民、於テ一致  
 協同能ク、其事ヲ奉ルルニ非サレハ、傳染病ノ豫防等、其  
 ノ周到ヲ期スルコト難ハス。然ルニ是等人民、於テ郡ヲ異シ  
 徑路ヲ別ニスルニ至ラハ、其ノ目的ヲ達スルコト亦難シト存。茲  
 特ニ、賀茂郡阿賀村ノ最モ、吳ニ近接シ、軍人職工等ノ  
 住居スル者多シ、衛生上、吳ト同一ノ取締ヲ為シ、該村民ヲ  
 シテ、吳人民ト協同從事セシムルノ必要有之。軍隊ノ保健上  
 最ニ直接ノ關係有之者ニ、炭疽芽、阿賀村ノ一村ニテ

七安藝郡ニ合併ノコトニ御取計相成度共段至急  
及照會候也

二十一年六月一日 海軍大臣

内務大臣宛

進テ郡制施行ノ際ニ至ルトキハ郡域ノ変更ニ一層困  
難ト社有存共際特ニ及テ照會候儀ニ有ニ共也

毎

頁

從政 郡  
何 村  
三 年  
郡 併

軍務局長

軍事課長

主任課長

海軍

中

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a military report or order. The text is dense and difficult to transcribe fully due to the cursive style.

Handwritten signature or name in cursive.

Handwritten signature or name in cursive.

1110

秘

軍務局

1755

三十年

二七九五

文書課

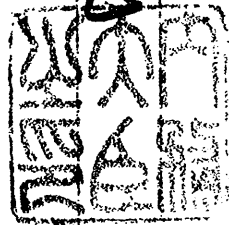
軍務課

陸軍部

秘乙卯廿四日九號  
 吳軍港一區域内、諸村安藝縣、全併之  
 儀、存案第一月四日官廳方知二七九五號  
 ノ三ノ以、此照會之趣了、承前件ニ付、  
 其關係重大ノ事件ニ付、爾來詳密調  
 査ヲ遂ケ、其地勢上、形界ヲ變更スル  
 ノ得策ナラサルノミナラズ、地方行政上ニ  
 於テモ、現今、僅據置於方便宜ニ之  
 尤衛生ニ関スル、主トシテ警察事務ニ  
 屬シ、其區域ニ地方長官、任テ、  
 得テ之ヲ定ムルモノニ付、若シ現在、警察  
 區域ニシテ、事實衛生、取締上、便宜ナ  
 シ、於テハ、之ヲ變更スルニ、格別留意スルニ

郡界ヲ変更スルノ必要無クテ  
尚煩ク熟一考度也  
明治三十一年五月三日

海軍大臣 寿芳川 顯正



海軍大臣 侯爵 西郷 從道 殿

進マシテ時機切迫ノ際ニ於テハ  
茲ニ事務條例中十條ノ特例ヲ有之  
付屬意申候也

1757

軍務局長

第一局

第一局

第一局

主事

浄寫

發付

校合

八月廿日

三十年七月廿一日

主務

立案者

大臣 次官

軍務局長

軍務課長

主任課長

總理局長

軍務局長

相原

案

軍港區域内、諸村安藝郡、合保、儀分、別紙、通、兵鎮守府司令長官ヨリ、上申、次第、有之、軍事上最必要、件、上、認、候、案、貴、大、臣、於、御、異、存、望、一、カ、リ、右、右、併、相、相、好、子、御、而、承、運、也、也、也、也、也、也、

番号第二七九号、三

再





海軍省

官房第二七九号三

陸軍省 二〇八六 號

軍務課

皇軍港区域内ノ諸村ヲ藝那ニ合併スル  
ニ付官房第二七九号第一號ノ  
之ヲ抄取及回為ス也

明治三十九年七月廿九日

陸軍大臣吉野公武



海軍大臣侯爵西園寺公望



陸軍省

軍令部長



第一局



主事



浄寫

發付内

校合

七月六日

三十年七月八日

主務

立案者

大臣



次官



軍務局長



軍事課長



主任課係



無理局長



第三課長



課係名倉

案

兵軍港區域内諸村安藝郡左併之儀。分別  
成。通兵鎮守府司令長官ヨリ上申。次第之有之  
軍事上最必要ノ件ト認。候。案。貴。大。臣。於。予  
以。是。志。等。一。以。右。左。併。之。儀。願。云。云。

毎

通



英鎮守由由七號

軍事謀

軍港区域内諸村安藝郡、合併  
其筋、御協議相成度義存申

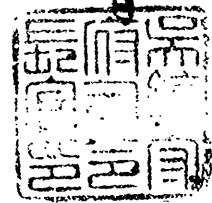
昨年勅令第三十七號ヲ以テ御公布相成候是軍港  
境域、安藝郡佐伯郡加賀郡、跨リ、就中安藝  
郡其大部ヲ佐伯郡ニ能美島那沙美島  
嚴島、諸村加賀郡、在テ、阿賀村廣村郷原  
村一部ヲ合テ、致居候然ル、孰々軍事上、觀  
念ヲ以テ考案スルハ、軍港、防禦線、斯レ三郡、直  
リ加フル、郡役所、位置遠隔スル、於テ、時機、切  
迫非常急劇、場合、臨、余令、布達、迅  
速、尤能、ハ、為、シ、軍機、ヲ、誤、ス、ル、思、有、之、コト、ナラ

七  
八

戦時戒嚴令施行物件徴収或致警戒防禦  
 付テ地方ト交渉ヲ要スル中、在テモ其不便不少殊、  
 平時軍港ノ保安衛生等、關シ鎮守府遠隔ノ  
 地ニアル郡役所ト交渉スルハ徒ラ、時日ヲ費シ時機  
 ヲ失スル虞可有之ト思考仕候且阿賀村、如キハ  
 諸種ノ事情女藝郡、密接ノ關係ヲ有シ候ヲ以テ  
 別紙請願書寫、如ク教々女藝郡、合併ノ件議  
 會、建議セシ有様、有之候處不幸ニテ昨年  
 ノ議會、於テモ亦不成立ト相成候得共本件、如キ  
 ハ軍港海陸正面防衛上必要ノ事柄、付キ可記  
 軍港區域内、諸村總テ女藝郡、合併相成候氣  
 其筋、御協議相成度此段上申仕候也

明治三十二年七月五日

吳鎮守府司令長官岡田少尉井上良馨  
海軍大臣侯爵西郷從道殿



請願書ノ件ニ付上書

尹則謹テ一書ヲ裁シ

貴族院議自閣下ノ哀願々茲、廣島縣賀茂郡  
 阿賀村ヲ女藝郡、係裂ノ儀曩キ、帝國議會請  
 願書ヲ奉呈シシ氏第一回第三回議事御紋ヲ第  
 二回第五回解散ノ不幸、接シ為、毎回御審議  
 上ラ、第四回第八回、至リ貴族院、議、附セテ速  
 採擇可決ノ榮ヲ世家リクモ衆議院議事御紋劇  
 ノ為、院議上レ能ハク村民、深ク遺憾トスル所、御座  
 候然レ、交請魚ノ飽マテ已ラ得ガレ所以ノモハ  
 第一地勢上阿賀村、賀茂郡、西隅突出ノ白界  
 岐ニシテ之ヲ女藝郡、併屬スルハ天然ノ境  
 界判明スル事



第三

吳鎮守府、安藝郡宮原村に在リテ近接  
 ナル阿賀村、係ル全府ノ諸徴稅總テノ事件  
 ハ賀茂郡役所ヲ經ル（三尾港ヲ賀茂郡役所ノ里程  
九里餘、岨岨ホ賀茂郡役所ヨリ  
阿賀村迄ハ九里  
餘、岨難ナル道路ナリ）不使不敷一例ヲ舉ギシハ日清事  
 變起ルヤ吳鎮守府發給衛ノ陸軍後備隊  
 ハ字平原及鍋ノ氏在アリテ毎度演習アリ  
 亦海軍水兵、演習等ハ常々阿賀村地方ニテ  
 行ヒ右演習、付テハ村内ニ其計畫アルモ  
 我阿賀村に於テハ其事ヲ知ラズシテ不準備ナリ  
 官民ノ不都合ヲ釀ク依テ其通知ナキヲ其軍  
 隊ノ導ヌルニ接クモ賀茂郡役所ヲ經テ通知  
 ナシ置キテリトノ義、有之之レ皆遠隔ナル賀茂  
 郡役所ヲ經ル迂回、起固スホ阿賀村ニ

鎮守府、接近ナル軍港内ノ村落ニシテ全府  
咽喉ノ地、有之已、客多キ以來、事變、際  
ニ全府、發信防炮台ノ頂ニ教々所ヲ構造  
アリシ、皆阿賀村地内、有之依テ阿賀村ヲ女  
藝郡、合併スルハ、軍事上直達敏捷ノ便  
最ニ甚シキ事

第三

産業上肥料其他ノ需用品ハ悉ク女藝郡  
呂尾ヲ水々又全地方ノ需用物ニ至ル迄ヲ  
クハ阿賀村ヲ供給シ極便ノ接續地ニシテ古來  
ヨリ其關係ノ厚キ事

第四

公共經濟上阿賀村一ヶ部ヲ分列スルハ為ノ  
以テ阿賀郡經濟ノ障得ナキ事

第五

教育上大ニ便利ヲ得ル事

第六 交通上旧来ノ凡俗習慣總テ安藝郡ノ濃

厚ニシテ却テ賀正郡ノ疎薄ナル等自然ノ形勢

全ク往復ノ便否ニ起因セシ事

第七 阿賀村ヲ安藝郡ニ合併スルハ傳染病豫防

取締一歩トヤリテ是ノ軍港ノ衛生上大ニ便ナル

以上自然ノ執況ニ徴スル理由ニテ尚其巨細ノ如キハ請願

書ニ上載提出仕候間其情御明察願意御

採納賜リ度奉懇願ス

庄司島村 阿賀村長

平白 手 則

三

三十三年正月三日  
前在厚志の梅子云  
本書は多岐の長原義久の筆跡と見ゆ  
弟江長原義久の筆跡と見ゆ  
提出ノ旨

廣島縣安藝國賀茂郡阿賀町子

安藝郡八分合ノ儀請願書

賀茂郡阿賀町

廣島縣安藝國賀茂郡阿賀町ヲ安藝郡へ分合ノ儀請願

在廣島縣安藝國賀茂郡阿賀町ヲ安藝郡へ分合ノ儀本町人民舊藩時代ヨリ執望ニ有之候得共  
其時機之適過セズ深ク遺憾トスル所ニ御座候然ル處先敢郡制發布ニ相成町民共テ渴望ノ  
氣焰頻リニ起リ依テ請願仕候其理由左ノ如シ

一 阿賀町ハ賀茂郡沿海村ノ西ノ最モ詰ノニ位シ地形十中八九ハ安藝郡ニ接續シ字灰ヶ峯ヨリ以南  
西北ハ安藝郡本庄村和莊町宮原村敷田屋村ヲ隣シ阿賀町字情島小情島ハ安藝郡下  
浦川島村瀬戸島村倉橋島村ノ海間ニ突出シ阿賀町ノ南凡三里海岸ニ沿ヒ唯東ノ方サシ賀  
茂郡郷原村廣村ト灰ヶ峯ノ高山ヨリ越畑小倉山ノ頂キ雨水分派ヲ堺シ天然ノ境界ヲ成セリ  
依テ阿賀町ヲ安藝郡へ分合スルハ天然ノ境界判明ハ則別紙圖面之ニ通り

二 軍事上ノ便ナルハ最モ多シ且一例ハ吳鎮守府ハ阿賀町ノ接近タル吳港ニ在リテ其距離僅カモ里内  
外ナリ方ニ出来事アリテ吳鎮守府ニ非常急劇ハ夫又諸徴發ヲ要スルモ拾里ノ遠キ賀茂郡役所へ  
通シ同役所ヨリ阿賀町へ通謀スルハ迂遠宛リ遂ニ機會ヲ失フノ不便ナキニ非ス其事實例ハ已ニ廿七

年兵員召集ニ付隣村ナル安北執郡和壯町ニ敬告報揚アルモ本町ニ一日后ニ至リ漸ク召集ノ令達  
 シ亦廿七年十月俄ニ渡清ノ船夫數拾人安北執郡後所へ徴雇ノ命アルモ令郡ニテ定員ニ充タスシテ不  
 便ヲ生ズ亦阿賀町ニ舟夫數百人在村スルモ郡田共ルヲ以テ其事ヲ知ラズ漸ク時日ヲ経テ其不足ヲ  
 阿賀町ヨリ調達セシ事アリ亦廿七年戰時ニ際シ隣村ナル和壯町へ屯在ノ陸軍後備兵隊及海軍  
 水兵ノ演習時々行ハレ其度毎賀茂郡後所へ通知アル趣ナルモ其演習地ナル我阿賀町ニハ更ニ知  
 ラズシテ不都合ナル事アリ以上皆賀茂郡後所ニ拾里内外ノ遠隔ナルニ依リ安北執郡兵港ト接近  
 ナルモ郡ノ田共ルヲ以テ至要ナル機念目ヲ失フノ不都合ヲ生スルニ至ル阿賀町ヲ安北執郡へ併屬スル  
 片ニ同郡後所及ビ鎮守府接近ニ付即時本町へ通達アリテ事ヲ直ニ辦スルノ敏捷ナルハ則軍事上  
 大關係ナルベシ亦阿賀町ニ兵鎮守府軍港内ニテ已ニ廿七年ノ後兵鎮守府守備ノ爲メ堡壘  
 數拾ヶ所臨時築キ造アルモ每堡壘、半方ハ安北執郡和壯町其半方ハ本町ニ跨リ如斯軍港内  
 主要ノ村落ニシテ是非トモ阿賀町ヲ安北執郡へ合併スルハ國防軍備ノ大急務ニシテ他郡村トハ  
 特別ノ事情有之候事

三 産業上阿賀町土地狭く人口多ク依テ職工日雇漁夫行商者十中八九アリ中ニモ職工四百人余ハ其鎮守有造船廠等へ通勤シ亦行商及人夫數百人ハ其港へ日稼ニヨリ以テ今日ノ糊口ヲ度ギ来ル然ルニ明治二十八年三十年ノ如キ傳染病流行ノ際阿賀町ニ患者數名發シタル時ハ其鎮守有ヨリ交通遮断ヲ促カサレタル實例アリ本町ト其港ト、遮断ヲ決行スル時ハ勿心々饑餓ニ及ラハ必定ナリ其際其港ノ内ニモ患者數名發生スルモ一家遮断ニシテ全村遮断ノ沙汰ナキハ全ク衛生ノ取締一守ニナラサルニ起因スル所以ナリ亦阿賀町ハ半方漁業ヲ以テ生活トスル村落ナルモ阿賀町ノ沖合ハ其安藝郡ノ海ニ屬シ此漁場ニテ漁業ヲ為サルヲ得ズ事ヲ辨別セカハ漁夫社會ノ事故沖合中安藝郡ノ漁夫ニ制限セラレ其業ヲ止メテ空ニシク歸ル事常ニアリ是レ全ク郡ノ異ルニ起ル所以ナリ依テ阿賀町ヲ安藝郡へ併スルハ産業上止ム事得サル地形ニ有之候事

四 阿賀町ハ安藝郡ノ最モ西ノ諸ノ位ニ同郡後所及稅務署へ距離殆ニド拾里ノ遠路殊ニ山坂多ク崎嶇險難ニシテ村民常ニ不便ヲ蒙ル故其邊アラズ其志例ヲ其年クハ船舶賣買及

新造船スルモ之カ鑑札ヲ受ケサレバ航海スルヲ得ズ依テ郡役所ヘ急行鑑札請求スルモ往復三日  
 間以上ヲ経サレバ鑑札ヲ得ル能ク爲メ順風變シ逆風トナリ出帆ノ好機ヲ失シ船稼ノ者陸上  
 ニ在ツテ唯虚手家居且其業ヲ成サズ商人其時機之後レ日稼ノ漁夫之レカ爲メ困比船ヲ来シ亦  
 農商ノ者車ヲ新調シ之ヲ烱印ヲ願受ルニ月一日ツ、ニテ村ヘ出張検査アルモ之レ亦遠隔殊ニ日  
 限廻リ遠キ拾里ノ遠路ナル郡役所ヘ車ヲ挽行クニ少クモ日數三日間ヲ費ス小民之レヲ厭ヒ在萬  
 日子ヲ経過シ遂ニ煎印ノ俵使用シ犯則ノ四討ヲ受クルモ勸カラズ其他諸稅定期及隨時收入  
 上納日々多數ナルモ拾里ノ遠<sup>智茂郡役所</sup>嶮遠ナル<sup>西条稅務署</sup>へ納稅出頭スル不便亦阿賀町役場諸用  
 ヲ敷理スル爲メ吏員及脚夫ノ往返郵便ニ依ラサル事務多シテ旅費又脚夫賃相出高ニ村稅  
 ノ増進スル不便故其年ニ追テ之レニ及ニ安藝郡ヘ令合スルハ同郡役所又稅務署其他國  
 庫銀行等皆其港ニ在リテ本町ヨリ距離志里内外ノ事故前數件ノ事務ヲ敷辦スル迅速  
 敏捷本町介帳八十余ノ便益ノミナラズ官民ノ都合ニ有之矣事

四 其港ニ都倉日地ニシテ隨テ修事全備ス然ルニ本町ニ其接近ニ在ルヲ以テ阿賀町ヲ安藝郡ヘ分



合スル片ハ本町ニ於テ教云月上大ニ便利ヲ得ル事カラズ

五 衛生ニ付テハ三港へ海産曲長産品物ヲ輸入スルハ則阿賀町ナリ亦諸郡而用是ク阿賀町へ求ムルハ

則三港ナリ依テ阿賀町ト三港トノ間日々夜々人馬往返スルハ節止苗ノ如ク依テ傳染病豫防ハ兩

町相離ルベカラカレモ郡ノ界ルヲ以テ一体ナラズ之レ三港鎮守府及同港及本町人民ノ不幸ノミナラズ郡

一縣ニ波及スル理ニシテ衛生ニ就テモ分合ヲ要スルハ公益又ハ國防上ノ大關係ナルベシ

六 阿賀町ハ賀茂郡ノ最モ西詰ナル一小部村落ニシテ安藝郡へ分合スルモ賀茂郡ノ經濟ニ障得ヲ

醸ス事ナシ且分合スルハ地形上天然ノ境界ヲ判明スルヲ以テ兩郡共公平ヲ以テ論スル時ニ敢テ故障

ヲ言フベキ事ナシ

七 阿賀町ハ賀茂郡ニシテ同郡ノ人情風俗大ニ異リ實際疎甚薄ナルハ自然ノ形勢ニ依ル却テ安藝郡

ニ實際親密人情風俗ノ同シキハ之レ地形ノ然ラシムル所以ナリ且賀茂郡ニ三拾九ヶ町村アリ其内沿海

村ニ僅カ四分ノ一ニ過キズ四分ノ三ハ皆奥部村落ニシテ從前郡ニ掛ル費用ヲ各村へ分擔ノ會議アリ

ルニ賀茂郡聯合村會及組合町村會ニ於テ少數ナル沿海村ハ多數ナル奥部村ヲ議員理ノ當

否 (茲三例ヲ舉ゲ奥郡村落ニ土地多クモ戸數及管業業者稀ナリ沿海村落ニ土地狭キモ戸數及管業業者多シ  
依テ土地ノ稅率ヲ輕クシ戸ト管業業トハ負擔スルニ同部 議員皆之ニ同意ス)

ニ拘ハラズ多數ヲ占メテ議決ニ於テ致方無之ト雖氏奥郡村落ニ組合村稅偏輕沿海村落ニ

重ク我阿賀町ニ負擔ニ堪ヘズ此等負例ニ明治二十三年度賀茂郡組合町村稅阿賀町ニ負擔

額五百七拾五圓五拾五匁ナリ安藝郡組合町村稅ヲ比較トシテ取調タルニ戸別割込戸拾錢

壹圓六八拾五匁割込地方稅壹圓二匁村稅參匁八厘五毛地價拾圓二匁六厘七毛三五是ヲ

仮ニ阿賀町ニ負擔戸數壹千五百九拾四戸ニ割當ラ見ルニ二百六拾五圓七匁八厘又阿賀町地價

拾萬九千八百八拾四圓九錢ニ割當ラ村稅八拾八圓五錢七厘亦阿賀町地方稅以管業業雜

種稅金高八百四拾四錢壹圓ニ割當村稅參拾圓八拾兩參錢參厘トル<sub>地戸此三稅ヲ營業</sub>

合ニ安藝郡分本町ニ割當計百八拾圓參拾八錢八厘トナルニ引計百九拾壹圓拾壹錢四厘

賀茂郡町村稅阿賀町ニ負擔多シ唯是々年ノ組合町村稅スラ斯ノ如シ之ハ唯人情ノ異ル

ノ一例ヲ申ス迄ナリ

以上ノ理由ニ付安藝郡ノ分合儀本町人民ニ統多事ノ熱望ニ御座美依テ町會議

決上此段請願仕候也

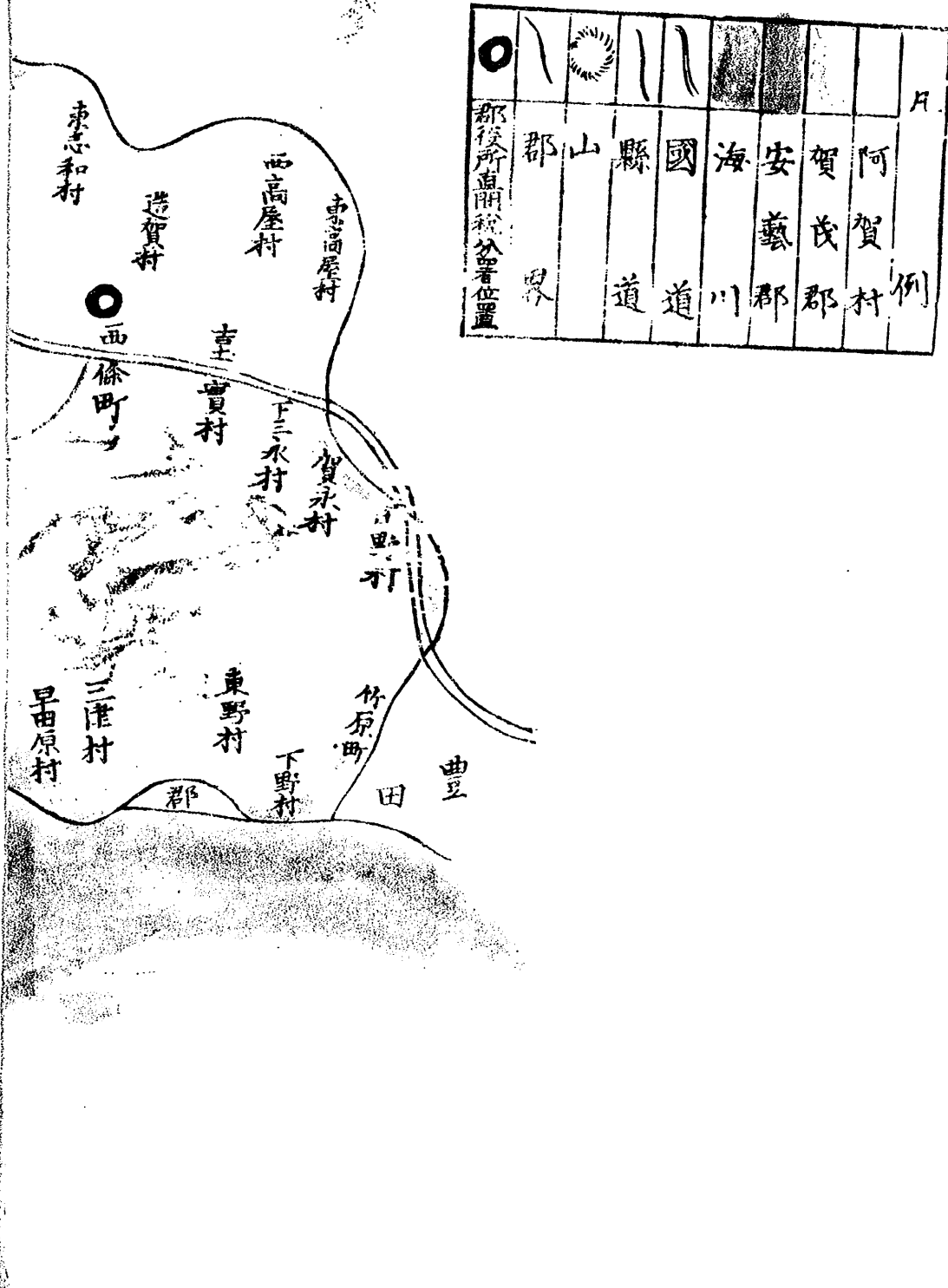
明治三十五年五月 日

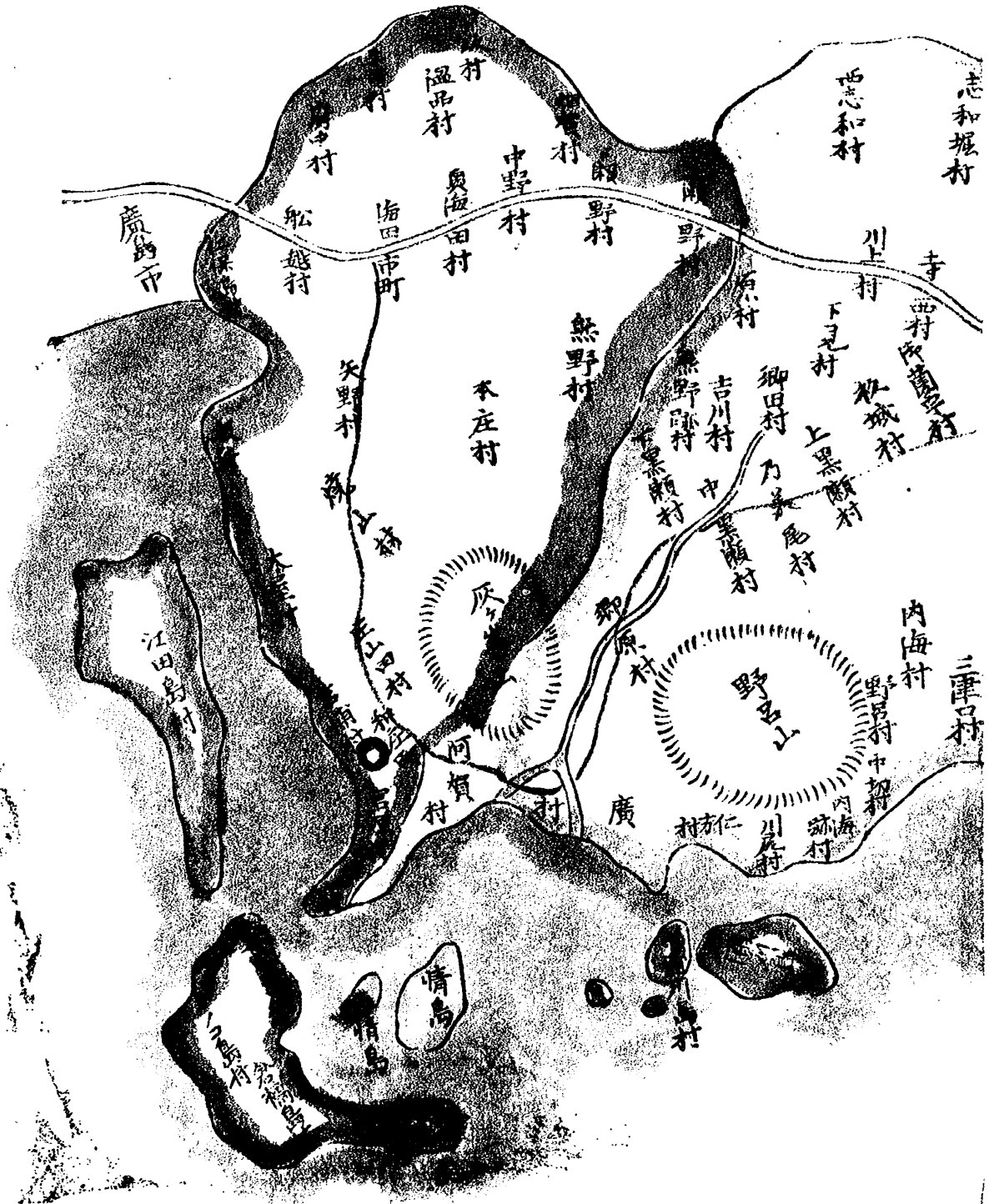
津島縣安藝國竹原郡阿賀町長

河野彦右衛門



2221





次官  
供覧



通書第七回

公文



第一局

代

末

軍

軍務課

主任課長  
松本

兵鎮撫者中五三席及下兵廣物言由後方

之成事計上中下七方之有之其志長軍業之既

及事業之進退已得得者好海より日美大平也

高者女し至るに其の志は三つに以て其の友

業に下級後之に日最に各各其の志は日下

上経理ノ目途之を其の友に面成其業に

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

其の志は其の友に其の志は其の友に其の志は

此の書は、  
 江戸幕府の  
 御用書  
 である。

吳鎮機密第五三號

吳廣鐵道敷設ニ就キ意見上申

交通運輸ノ敏活ハ社會發達ノ基礎ニシテ陸上  
 輸送ハ鐵道ノ至便ナルヲ敢テ喋々ヲ要セス殊ニ  
 國防出師ハ最モ核敏ヲ主トシ就中海軍勢力ノ  
 根據タル各軍港ニ於テ造船造兵其他出師ニ要  
 スル軍需品ノ集收配給ノ遲速ハ其軍械ニ大  
 影響ヲ及ホス力故ニ軍事上ノ必要ニ於テハ殆ント他  
 ニ其比ヲ見ス是ヲ以テ横須賀軍港ノ如キハ夙ニ鐵  
 道ヲ完備シ佐世保軍港モ亦本年已ニ完成ヲ告  
 ケタリ然ルニ吳鎮守府ニ他鎮守府ニ比類ナキ造  
 兵廠ノ設立アリ其他諸般ノ設計頗ル具備セルニ構

軍事課  
  
  
  




ハラス其械関ヲシテ最モ敏活ニ運用セシムヘキ鉄道敷  
 設未タ其緒ニ就カサルハ本官ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ  
 抑モ吳海軍造船廠ハ創立日尚ホ淺シト雖氏刻下  
 職工無慮數千名ヲ使役シ其製造力ハ一々年間ニ  
 大小速射砲百餘門魚形水雷數十個ヲ製作スルニ  
 足り彈丸火工品ノ製作高モ亦之レニ準シ帝國十有  
 餘万噸ノ軍艦及ヒ水雷艇ニ供給スル重要ナル兵器水  
 雷ノ製作ニ至リテハ殆ント皆該廠ノ事業ニ係ラサルハ  
 ナク其他吳海軍造船廠ニ於ケル艦艇ノ製造修理  
 及ヒ諸部ニ屬スル百般ノ軍需品供給ニ於テモ一朝  
 有事ノ際ニハ帝國總テノ艦艇ニ對スル準備ヲ  
 ナサハルヘカラス是レカ為ノ吳軍港ニ集收スル材料ハ其量  
 莫大ナリト謂フヘシ然ルニ吳廣島間ニ鉄道ヲ有セサレ

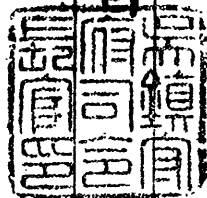
ハ此莫大ナル材料ハ悉ク水路ニ依ラサルヘカラス而シテ此  
 水路タル重大ナル物品輸送ノ機關未タ備ハラス從テ  
 其轉載運輸共々甚シキ困難ヲ感スルヤ必セリ曩キニ  
 横須賀鎮守府ヨリ當軍港ヘ向ケ十五拇速射砲ヲ輸送  
 セシ際ニ於テモ鐵道輸送ハ山陽線路ノ糸崎ニ止メ  
 同所ヨリ海路當軍港ニ船送致セシニ兩地間ノ船載  
 機關備ハラサル為ノ徒ラニ七日間ヲ費セリ且ツ目今ノ狀  
 勢ニテハ造兵造船ノ材料其他需品ニ於テモ尚ホ外國品  
 ヲ仰クモノ多ク其輸入ノ便ヲ計ラントセハ勢ヒ當軍港内ニ  
 外國船ノ出入ヲ許サルヲ得ス斯クスレハ軍械ノ秘密ヲ漏  
 洩スルノ虞アルヲ以テ往々神戸ニ於テ其物品ヲ轉載セシメサ  
 ルヲ得ス而シテ是ヲ輸送スルニ神戸廣島間ニ鐵道ノ便ニ  
 委スルトスルモ尚ホ廣島吳間ニ再ヒ水路ニ依ラサルヲ得サル

不便アリ若し又神戸吳門ヲ内國船ヲ以テ回漕スルトセ  
 ンカ内海ノ天候濃霧多キ時季ニ於テハ必シモ速達ヲ  
 期スヘカラス縱令斯ル障碍ナシトスルモ其速度遙カニ鐵道  
 ニ若カサル言テ埃々ス其他内國品ノ集收ニ於テモ亦同一ノ  
 不利アルヲ免セス若し夫シ不幸ニシテ一旦敵軍ノ為メニ  
 軍港ヲ封鎖セラレタル場合ニ於テハ其背面へ水雷艇ノ  
 輸送ヲ企テ若クハ軍港背面防衛ノ為メ急速陸兵ノ  
 輸送ヲ要スル場合アリトセシカ鐵道ノ最大必要ナルコト  
 彰々ナリ曩キニ帝國議會ノ協賛ヲ以テ吳廣鐵道  
 ノ敷設ヲ民業ニ委セラレタル趣ナリシモ未タ其實施ヲ  
 見ス今ヤ東洋ノ風雲益々非シテ國家多事ノ秋ニ際  
 シ軍備上最モ重要ナル軍港鐵道ノ敷設如斯延滞  
 スルハ水官ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ若シ該事業ヲレテ

民業ヲ以テ速成ヲ期シ難キ事情アレハ断然官業ヲ以テ該  
鐵道ノ竣工一日モ速カナラント目下最大ノ急務ト思考  
ス依テ茲ニ卑見ヲ提出致候御採用ヲ得ハ幸甚

明治三十一年三月七日

吳鎮守府司令長官男爵 井上良馨



海軍大臣侯爵 西郷從道 殿